

## 大宮工業・浦和工業新校準備委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年5月30日（火） 午後3時開会  
午後4時35分終了
- 2 会 場 県立大宮工業高等学校大会議室
- 3 出席委員 依田委員長、山崎副委員長、堀口副委員長、石井委員、岩崎委員、鈴木委員、竹原委員、野澤委員、水島委員、廣川委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本

### 5 協 議 「大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）」について

依田委員長 前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、御意見を伺いました。その詳細については、第1回の新校準備委員会議事録のとおりです。その後、事務局において、前回の委員会及び学校職員等で構成される新校基本計画検討委員会でいただいた御意見等を踏まえその内容を検討するとともに、新校の学科名や学級規模についても検討し、まとめた骨子案が「資料1」です。それでは、「資料1 大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）」の説明を事務局からお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

依田委員長 ただいま学科名と学科ごとのクラス数について説明がありました。これにつきまして、皆様から御意見をいただければと思います。

岩崎委員 学科名等の説明がありましたが、その前段階として、現在の大宮工業高校の定時制はどうなるのでしょうか。どのように考えているのかお聞きしたいと思います。

事務局 説明が不足していました。今回の再編計画の対象は全日制のみとなっています。現在の大宮工業高校の定時制についてはこれまでどおり、何ら変わることはありません。

岩崎委員 なんとなく説明は理解できますが、大宮工業高校の定時制として残るわけではなく、新校の定時制として残るわけですね。

事務局 そういう形になります。

岩崎委員 ではなぜ、骨子案の課程・学科等の項目が全日制・定時制となっていないのでしょうか。

事務局 第1期実施方策における飯能高校が同じ状況でした。飯能高校にも定時制がありましたが、これまでと変わらないということで計画を検討してきています。結

果的に飯能高校の場合は新校の校名も飯能高校となったため、飯能高校定時制のままですが、大宮工業・浦和工業新校の校名はどうなる分からない状況です。来年度検討していきますが、校名が変わる可能性も当然あります。骨子案の表現方法を含め、岩崎委員御指摘の点について、事務局で検討させていただきたいと思います。ただ、思いとしては、定時制について何かを変えるということはなく、これまでどおりの定時制を引き継いでいきたいということです。結果的には新しい学校に併置される定時制課程ということになると考えています。

岩崎委員 よろしくお願ひします。ただ、飯能高校の例を説明いただきましたが、校名が変わらなかったのは偶然であり、今回は今回でしっかりやっていく必要があると思います。定時制については何ら変わらないということでしたが、それは教育局の思いであり、これは私の要望ですけれども、定時制の職員のモチベーションを新校になってもしっかり保っていくことが大事であり、我々も新校でがんばっていくのだという思いを持っていくためにも、最初からきちんと入れておくべきだと思います。なおかつ、教育内容が変わらないにしても、新校開設委員会等、新校の検討に定時制の職員も入れるべきだと思います。教育課程は変わらないかもしれませんが、新校の定時制になるわけです。新校の目指す学校や育てたい生徒像の検討にも定時制の職員が参加すれば一体感が出ます。私が知る限り、大宮工業高校はこれまで、なるべく全日制と定時制を区別しないという方向性で10年近くやってきています。県の思惑で全定を分断するようなことがないようにお願いします。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。岩崎委員の思いを局としても受け止め、また皆様にもその思いを伝えられるよう表現方法等について工夫していきたいと思います。また、定時制の職員のモチベーションという点についても、十分配慮して、今後の情報提供等に努めてまいりたいと思います。

野澤委員 学校規模についてお伺ひします。1学年280人というのは、現在の大宮工業高校の学校規模と同じだと思いますが、新校は魅力ある新しい学科も作るの、入学希望者も増加が見込まれるのではないのでしょうか。校舎の問題も踏まえているのかと思います。その辺りの本音の部分をお聞かせ願ひします。

事務局 鋭い御指摘をいただいたと思います。まず、既存の施設を最大限有効に活用したいという前提があります。大宮工業高校の最大のキャパシティは8クラス規模です。よって320人までは収容できるということもありますが、現在の大宮工業高校が7クラス規模でやってきたということ踏まえ、7クラスを原案とさせていただきました。ただ、先日行われた学校の教員や局の職員で構成される新校基本計画検討委員会では、キャパシティいっぱい使って生徒募集したら良いのではないかという意見も出ていました。

依田委員長 それでもやはり7クラスが原案という点について、もう少し分かりやすく皆さんに説明してください。

事務局 7クラスを原案とし、皆様から御意見を伺っている段階です。岩崎委員からの御指摘にもありましたように、定時制との共用教室もあるため、8クラスとした場合に定時制を含めうまく収容できるのか、活動に支障がないのか学校に確認する

必要があります。今日のところは事務局としての当初案として7クラスを提示していますが、案として固めた7クラスではなく、皆さんからの御意見を踏まえ更に検討を重ねる余地を残しています。

依田委員長 今の説明を踏まえ、野澤委員としては7クラスという原案についていかがでしょうか。

野澤委員 考え方としては分かりますが、今、浦和工業高校に1学年何人いるか分からないですが、絶対数として考えれば両校併せて7クラスより多いことは間違いのないでしょう。両校とも生徒募集で苦戦しているという現状もありますが、先ほども申したように魅力ある学科にするわけですので、現状の大宮工業高校の7クラスに合わせるというのはちょっと納得し兼ねる感じがします。

依田委員長 他、委員の皆様いかがでしょうか。このクラス数について御意見をいただければと思います。

廣川委員 新校基本計画検討委員会では学科名についてもいろいろな意見が出たと伺いました。原案自体も固まっているものではないとのことですが、どんな議論が展開されたのか、また本日御欠席の委員から何か御意見をいただいているのであれば御紹介いただければと思います。

事務局 先日行われました新校基本計画検討委員会では、機械、電気、建築のように旧来の学科名を引き継ぐのではなく、新しくなるということで学科名も変えていくのも良いのではないかという意見がありました。例えば機械科については機械システム科、マシンクラフト科、モビリティ科など横文字にして先端分野のイメージを出していければ良いといった意見。電気科については電気システム科、建築科はインテリアデザイン科、共生デザイン科などの意見が出ました。ロボット技術科については、日本語に訳すとロボット工学を意味するロボティクス科などの意見がありました。デジタル情報科についてはシステムデザイン科、コンテンツデザイン科などエンジニアリングの分野におけるデザインを使ったらどうかという意見がありました。また、デジタルと情報と意味が重複しているのではないかという御指摘のほか、先端情報科、先進情報科などのアイデアも挙がりました。また、本日御欠席の委員からも御意見をいただいています。金子委員から「学科名は学科の学びを体現し、中学生にそのイメージを伝えるものであることから募集にも影響がある。情報技術系よりハードウェアの要素を少なくし、Society5.0に対応した学びの実現という意図は分かるが、デジタル情報科というのはどうなのか。中学生にとってはイメージしにくいのではないか。」という御意見をいただきました。原案はあくまでもたたき台であり、是非御意見をいただければ持ち帰り検討していきたいと思っています。デジタル情報科について事務局の考え方をお伝えしますと、一昨年9月にデジタル庁が発足しており、このデジタル庁は「デジタル化の恩恵がすべての国民に行き渡る社会を実現するために、データ資源の利活用やサービス創出を推進し、デジタル時代の官民のインフラを創り上げる。」というところを目指しているとのこと。こうしたデジタル庁の動きや取り組んでいる業務から連想されるイメージと重なってくる部分があるのではないかとということで原案としました。さらには、

募集学級規模についても、本日御欠席の渡辺委員から御意見をいただいています。野澤委員と同じく、浦和工業高校と統合するのに規模が小さいのではないかと。浦和工業高校の電気科と合わさるのだから、新校の電気科は2クラスが良いのではないかとという御意見です。事務局としましては、最大8クラスのキャパシティということがありますので、もう1クラス募集を増やすことは現実的には可能かと考えています。ただし、電気科については両校の志願者の数を足しても80人に満たない厳しい状況です。また、両校は鉄道で結ばれてはいるものの、さいたま市北区に所在する大宮工業高校は、川口市や戸田市からの入学生は少なく、両校の生徒の居住エリアが少し異なる点を踏まえると、2クラスはどうかということも考えた上で1クラスを原案としています。

石井委員 デジタル情報科という学科名についてですが、原案だと中学生に対するインパクトが弱いのではないのでしょうか。デジタルも情報も昔から使われており、何も変わらないのではないかとという印象を中学生は持ちます。今の時代、Society5.0にプラスしてデータサイエンスやチャットGPTなどの生成AIなど、さいたま市でも生成AIを高校教育にどのように活用していくか研究しています。このように新たな視点でできますよという名称を、具体的にこれだというのはないのですが、例えばデータサイエンス科など新たな視点を持って思い切り変えた学科名にすると、中学生もどんな学びができるのかイメージしやすいのではないのでしょうか。それともう1点。岩崎委員から定時制の話がありましたが、私自身、教員としてのスタートが大宮工業高校の定時制で、本日も非常に感慨深い思いで参加させていただいています。当時は定時制の生徒たちも一生懸命にやっていたという印象がありました。今回のテーマからは外れるかもしれませんが、例えば定時制の生徒も新校の全日制の授業を受講し単位認定ができるようにするなど、今後中身を詰めていく中で検討しても良いのかと思っています。

水島委員 一人の保護者として意見を述べます。募集学級数については、残念ながら両校とも今年度は定員に達しませんでした。新校になるということで、埼玉県内の保護者や中学3年生にとっては、新しい教育が受けられるという期待を持って受け止められ、期待値は上がっていると思います。また、デジタル分野に対する子供たちの意識も変わってきていますし、将来エンジニアになりたいと思っている子供も多いのではないかと考えています。そういう意味で、ギリギリのところを攻めるというのも良いのではないかと考えています。280人募集では入れないからと諦めてしまう層が出てこないようにしなければならないと思います。学科名については、漠然とした学科名だと何が学べるのか分からないと思います。中学3年生はまだ自分でちゃんと調べるところまでできないので、学科名から連想できるイメージが学校選びの大きな要素の一つとなります。デジタル情報科では何が学べるのかよく分からないですし、保護者としてもよく分からないので、その学校を子供に薦められないと思います。石井委員からもあったデータサイエンスなど、学びがイメージしやすい学科名に、最終的に着地できれば良いと思いました。

依田委員長 保護者の視点での御意見がありましたが、中学校の視点から、鈴木委員

に御意見いただければと思います。

鈴木委員 非常に難しいと感じています。中学生はネーミングで学校を選ぶわけではないと思います。目指す学校像や育てたい生徒像など、まずはどんな学校なのかということ。また、中学生が特に気にするのは高校卒業後にどんな資格が得られるのか、どんな職業に就けるのかということです。普通科志望の中学生は大学進学を漠然と考えますが、専門高校を選択肢に入れる中学生は、自分の特性と合わせて将来像を真剣に考えて受検します。ネーミングがどうであれ、どんな学びができるのかということから興味関心につながります。今でもやられていると思いますが、広報活動が今後必要になってくると思います。せっかく統合されるのですから新たな形を模索しながら、もともとある大切なものを踏襲しながら進めていけると良いと思います。余談ですが、過日、学区内にある企業から「ある程度会社が軌道に乗ってきたので、泰平中学校に恩返しをしたい」という電話がありました。聞いてみると、社員の半分が泰平中学校の卒業生とのことで、隣にある大宮工業高校の卒業生もいるとのことでした。このように、手に職を、技術を持って地域に根ざし地域に恩返しできる人材の育成というのが新校の理念の一つになります。ネーミングにかかわらず、目指す学校像や育てたい生徒像をしっかり検討していく必要があるのではないかと思います。

竹原委員 私は泰平中学校の卒業生です。私自身、大宮工業高校に入りたかったのですが、紆余曲折あって普通科高校に入りました。その後、建築関係に就職しましたが、まず言われたことは、なぜ工業高校に行かなかったのかということでした。企業側も新校にどんな学科があるのか見ると思うので、一目瞭然にどんな学科なのか分かる学科名が望ましいと思います。子供の視点でも同じだと思います。保護者としても、イメージが湧けば子供に、じゃあがんばりなさいと言えるのではないのでしょうか。漠然とした学科名だとイメージが湧きづらいと思います。

岩崎委員 ネーミングは難しいですが、結局はその学科の教育課程をどうするか、本来大事なの中身ではないのでしょうか。学科名に惹かれてこんなことやるのだろうかと思って入学したら実際は全然違うということがあってはいけないと思います。要望ですけれども、新校は工業高校ではなく、工業と専門教科情報が2つある学校なので、そのイメージができるようなネーミングにするのが良いと思います。このままだと工業科7クラスの学校という印象を受けてしまうのではないのでしょうか。新校は工業に関する学科が6つと専門教科情報の学科が新たに設置されるということが際立つようにしていただきたいと思います。恐縮ですが、そういった視点を持って検討を進めていただければと思います。

依田委員長 2つの系列みたいな形を作るというイメージでしょうか。

岩崎委員 工業科と専門教科情報があるのだということを中学校の生徒にも先生にも分かるようなネーミングが良いと思います。

事務局 大変有り難い御意見をいただきました。事務局としても御指摘の点を懸念しており、しっかりと打ち出していかなければならないと考えています。泰平中学校長を目の前に言うのもなんですが、学科名に情報が付くと興味関心を持ってくれる中学生は多く、ICT優勢の時代、イメージは良いのだと思っています。情報が付

く学科は大学科でいう商業科や工業科にもありますが、この違いを打ち出していくことが大事だと考えています。先ほど紹介できませんでしたが、学級数を増やしたほうが良いという御意見の中には、情報に関する学科を2クラスにすべきだという御意見もありました。本日御欠席の渡辺委員からは電気科2クラスが良いという意見もありましたが、新校基本計画検討委員会では、工業と情報のハイブリットの新校になるのだから、情報科がわずか1クラスではバランスを欠くというという意見がありましたことを紹介しておきます。

野澤委員 大宮工業高校はマイスターハイスクール事業の指定校になっています。次世代産業人材育成のための刷新事業として全国15の高校が指定されていて、関東では大宮工業高校が唯一だったかと思います。こういった取組は、新校づくりの参考になるはずであり、事務局としても当然お考えかとは思いますが、令和8年の開校までまだ時間があるので、引き続き検討していただければ良いと思います。

依田委員長 両校の校長からも御意見いただければと思います。

堀口副委員長 学校規模について、現状浦和工業高校は1学年工業科5クラス規模です。7クラス規模の大宮工業高校と単純に合わせると12クラス規模ですが、工業科に限定するとその半分、統合前の大宮工業の7クラスよりも少ない6クラスが原案となっている点が気になるところです。また、新校は埼玉県として初めて情報に関する学科が設置される学校となります。県の規模からすると今までなかったことが不思議なくらいですが、それ相応の学科をしっかりと作っていかなければならないという中で、生徒募集を考えると2クラスあった方が集めやすく、授業展開も2クラスあった方がやりやすいのではないかと思います。学科名については、原案の機械科や電気科はそれこそ戦前から変わらない学科名で確かに安定しています。現時点では分かりやすくこれで良いかなと思いますが、校名検討とも関わってくると感じています。校名から連想するワクワク感、期待感。最初のきっかけになるのが名前。そういった点も意識すると良いのかもしれないと思います。

山崎副委員長 野澤委員からマイスターハイスクールの話がありましたが、本校では昨年度から取り組んでいます。いわゆる習得型と探究型の学びを交互に入れ込んでやるところが特徴の一つで積極的に取り入れています。習得と探究、どちらから攻めていっても非常に効果的であり、基礎基本を習得しないと探究にいけないかというとうそではありません。また、外部との連携も積極的にやっていますし、学科横断的に建築科と電子機械科がソフトウェアとハードウェアをそれぞれ交互に連携して学んでいます。このように、これまでの工業科の学びや取組をどんどん刷新している中で、是非学科名も変えていただきたいと思っています。ドラスティックに変えて、なんだこれとなるかもしれませんが、我々もしっかり説明させていただきながら、魅力ある学校名、魅力ある学科名にして新校をPRしていきたいと思えます。実施方策では県内の拠点校としての機能を付しています。そういったことも踏まえ、リーダーシップを発揮できるような学科名にしていきたいと考えているところです。具体的な案については、先ほど基本計画検討委員会で出た意見の紹介がありましたが、機械科はマシクラフト科、ロボット技術に関する学科はロボティク

ス科、電気科は電気情報通信科、建築科は建築デザイン科などの意見があります。情報科については、工業科との違いを分かるようにしてほしいという意見に賛同します。カリキュラム等学びの内容はしっかり考えていかなければならないと思っておりますが、名は体を表すので学科名もよく考えて、例えば情報科学科や数理情報科学科など。データサイエンス科という意見もありましたが、ソフトウェアの分野はイノベーションが早いので流行り廃りが激しい。生成AIだってそのうちいつまでやっているのだとなるかもしれないし、チャットGPTもすぐに忘れ去られるかもしれない。また、大学進学を見ていかないと情報科は出口がありません。クラス数については、本校はもともと8クラス規模で運営してきているので最大8クラスかと考えています。情報科については、県内初の情報科で、ある程度人数がいた方が学びは深まるので、2クラスを考えた方が良いのではないかと考えています。

依田委員長 はい、ありがとうございます。大分時間が押してきましたので、よろしければ、学科名とクラス数につきましては以上にして、先に進みたいと思います。それでは、基本理念について事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）について説明）

依田委員長 両校から出た案について1回目の準備委員会が出た意見を踏まえ、更に検討して基本理念の案が出されたということではありますが、また新たに見ただいて、重要な点が落ちていないか等、御意見あればいただきたいと思っております。

堀口副委員長 目指す学校アに先端産業分野で活躍できるエンジニアを育成する学校とありますが、情報に関する学科も設置されるのでエンジニアよりもう少し幅広に捉えたほうが良いのかもしれませんが。例えば人材など。目指す学校イにSociety5.0に対応する学びとありますが、対応というよりも実現という表現のほうが良いのではないかと感じました。また、基礎からともありますが、普段学校では教職員に余り基礎という表現にこだわりすぎないようにと言っています。先端分野で活躍できる人材の育成を目指す中で、余り基礎、基礎と言い過ぎるとそういった目標が薄まってしまいますので。一つの意見としてよろしく願います。

依田委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。もしなければ、先に行かせていただいて、また何かありましたら、最後に全体について御意見を伺いますので、その時によろしく願います。それでは続いて、基本姿勢と教科指導について説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち教育活動等の基本姿勢、教科指導について説明）

依田委員長 先ほど堀口委員からも御意見がありましたが、情報科の要素を教科指導の基本方針にどう盛り込んでいくのか、私が発言してはいけないのかもしれませんが、ひと工夫あっても良いのかもしれませんが。いきなりアでもものづくり全般と出てきます。情報に関する言葉があっても良いのではないかと感じます。

事務局 1点補足させていただきます。先日の新校基本計画検討委員会では、基礎という表現ではなく、発想力や創造力が求められる時代ではないかという御意見があ

りました。堀口委員からもありましたように、基礎をやるのは当たり前で、更に先端的な学びにつながるということかと思えます。一方で、準備委員会の委員からは、産業界からの意見として、基礎もしっかりやってほしいという声もいただいています。そういった背景があり、文言としては基礎から発展的な部分まで網羅するような全体的な表現となっています。御指摘いただいているのは、焦点がぼけてしまっているということかと思えます。

依田委員長 分かりました。他、いかがでしょうか。最後に全体を伺いますので、時間の都合で、次の生徒指導に行きたいと思えます。事務局から説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち生徒指導について説明）

依田委員長 また皆様方から御意見を伺いたいと思えます。生徒指導について、御意見ありますでしょうか。

水島委員 前回は工業科に関する話が多かったと思うので今回の骨子案になっているのかと思えますが、全体的にエンジニアの視点が中心になってしまっています。基本方針も、エンジニアとしての規範意識の構築を図るとなっていますが、一旦リセットしてゼロベースで見直した方が良いと感じます。産業人材をどう送り出すかという観点のみならず、学校として生徒をどう社会に送り出していくかだと思います。エンジニアとして以前に、しっかり社会に出ていくための人間性の育成の観点を盛り込んでいただきたいと思えます。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち進路指導について説明）

依田委員長 進路指導について、委員の皆様から御意見を伺いたいと思えます。いかがでしょうか。よろしければ、引き続き事務局から説明をお願いします。

事務局 （大宮工業・浦和工業新校基本計画骨子（案）のうち生徒募集・その他について説明）

依田委員長 学校を選択する中学生の話なので、泰平中学校長からの意見をお伺いしたいのですがいかがでしょうか。

鈴木委員 子供たちが興味を持つかに尽きます。一般的には普通高校にしか目が向いていないところがあります。校名がどう変わるか分かりませんが、実際にどういった力が身に付くのか、どういう資格が取得できるのか、どんな勉強ができるのか、どんな楽しいことが待っているのかということを知りたいのだと思えます。一番大切なのは高校生と中学生の交流。高校生と交流したことで好印象を持つ中学生も多く、高校での学びを中学生にも体験してもらうことなどは効果的です。また、例えば中学生の保護者に対して高校生のPTAが説明するのも良いのではないのでしょうか。うちの子供たちはこんなふうに学校生活を送っていますよというのを同じ保護者の目線で説明できると面白いかもしれないと思えます。

依田委員長 これまで全体を通して、再度、お気づきの点や御意見がありましたら、いただきたいと思えます。

岩崎委員 一つの観点として、人生100年時代。恐らく今の高校生の定年は70歳になるでしょう。ずっと働き続けることになります。高校生活3年間の学び、身に付けた技術・技能でずっとやっていけるわけがないと思えます。学び続けるという姿

勢を身に付けさせられると将来困ることはありません。そういう観点の文言が入ると良いのかもしれないと感じています。必ず入れてくれというものではありませんが。後、どこで話して良いか分からなかったのですが、もう1点。現在、学校評価の観点で、大宮工業高校はコミュニティスクールを導入しており、浦和工業高校は学校評議員制度を用いています。新校は果たしてどちらで進むのか、それによっていろいろ変わってくるので大事なことかと思っています。今後、事務局でも検討していただき、どちらにするか明らかにしていただきたいと思います。

依田委員長 事務局で今後検討していく際に整理してもらいたいと思います。時間になりましたので、両校の校長から最後にまとめて御意見をお願いしたいと思います。

山崎副委員長 いろいろな御意見をいただき感謝します。エンジニアには例えばITエンジニアも含まれるかと思いますが、そういった生徒は将来的には大学に行ってしまうことになるかと思いますが、新校を卒業してすぐにどんな力が身に付くかということもあります。岩崎委員御指摘のとおり、学び続けるという姿勢が大事です。国は、課題解決力や自ら学ぶ力という表現を使っていますが、もう少し分かりやすい表現が良いのではないのでしょうか。皆さんがどう思うか分かりませんが、個人的には教育の場面で人材という表現は使ってほしくないです。子供は材料ではないので、何を育成するのか、どんな力を身に付けさせるのかというのが我々の仕事であります。企業では人材の育成と言いますが、学校では言ってほしくないと思っています。また、この再編計画を知ったのが昨年7月、新聞を見てからでした。情報科ができると記事には書いてあり、その時に思ったのが、ソフトウェアとハードウェアが両輪で動いていく良い学校になるなということでした。現在、技術革新はソフトウェアを中心に動いていますが、ものづくりも当然必要です。自動運転などの技術はソフトウェアが支えています。新校は情報科であっても工業の学びができますよというのは良いことだと思います。そういったことを具現化していくのが仕事なのだと思います。ソフトウェアもハードウェアもやっていくという観点を少し盛り込んでいただけると良いと思っています。

堀口副委員長 新校をつくっていく上で大変貴重な御意見をいただき感謝します。企業から出前授業をやっていただくなどの機会がありますが、企業として工業高校に期待することは大きいと感じています。変化の激しい時代という話がありましたが、技術の変化に対応をしていかなければならないと思っています。骨子案では、教科横断型の学びという表現があります。一つの領域や一つの教科で完結する時代ではありません。自動車が作れなくても自動車の会社は作れます。こんな自動車が作りたいたいと思ったらそれを実現してくれる企業を募れば良いのです。自動車産業に新規参入する企業が出てきているのもそういったことだと思います。今ある知識や技能をアップデートしていくということも非常に大事だと感じています。新校は学校教育の在り方を変えていく良いチャンスだと思います。

依田委員長 それでは、以上をもちまして、本日の協議につきましては終了させていただきます。皆様からの御意見、ありがとうございました。